

2023 年度

事業報告書

2023 年 4 月 1 日から

2024 年 3 月 31 日まで

公益社団法人 日本動物園水族館協会

第 1 章 協会の概要

I 設立年月日

- 1939（昭和 14）年 11 月 17 日 任意団体として発足
- 1965（昭和 40）年 11 月 22 日 文部省社会教育局(現在は文部科学省生涯学習政策局)所管の社団法人となる。
- 2012（平成 24）年 04 月 01 日 公益社団法人へ移行

II 定款に定める目的

本公益社団法人は、動物園、水族館事業の発展振興を図ることにより、文化の発展と科学技術の振興ならびに自然環境の保護保全に貢献し、もって人と自然が共生する社会の実現に寄与することを目的としている。

III 定款に定める事業内容

1. 動物園水族館に関する調査研究事業
2. 動物園水族館に関する教育普及事業
3. 動物園水族館に関する種保存事業
4. 動物園水族館に関する支援事業
5. その他この法人の目的を達成するために必要な事業

IV 監督機関に関する事項

内閣府公益認定等委員会

V 会員の状況

1. 会員の現状

種 類	2024 年 3 月末	前期末比較増減	備 考
正会員	138 名 (動物園 89、水族館 49)	動物園 - 1 水族館 - 2	退会：小田原動物園 宮津エネルギー研究所水族館 串本海中公園センター
維持会員	91 団体	+8 団体	

2. 正会員の異動に伴う入退会

2023 年度期間中：23 名退会、23 名入会（2023 年度総会時 17 名入退会）

VI 事務所の所在地

東京都台東区台東 4-23-10 ヴェラハイツ御徒町 402

VII 総裁・役員等に関する事項

1. 総裁に関する事項

総裁 秋篠宮文仁皇嗣殿下 1988（昭和 63）年 5 月 25 日 推戴

2. 役員に関する事項

役員一覧(2024 年 3 月 31 日現在)

役職	氏名	就任 年月日	役員就任 年月日	現職	手 当	執行担当・職務
理事	荒井 賢治	2022.5.26	2022.5.26	宇都宮動物園園長	無	
〃	古川 健	2022.5.26	2022.5.26	ふくしま海洋科学館館長	〃	ブロック代表理事
〃	辻本 恒徳	2022.5.26	2016.5.26	盛岡市動物公園園長	〃	安全対策委員長
〃	坂東 元	2022.5.26	2020.6.8	旭川市旭山動物園園長	〃	
〃	金子美香子	2022.5.26	2022.5.26	井の頭自然文化園園長	〃	教育普及委員長
代表理事	村田 浩一	2022.5.26	2020.6.8	横浜市立よこはま動物園園長	〃	会長
理事	勝俣 浩	2022.5.26	2018.5.17	鴨川シーワールド館長	〃	
〃	高見 一利	2022.5.26	2022.5.26	豊橋総合動植物公園動植物園長	〃	ブロック代表理事
代表理事	村井 仁志	2023.5.23	2016.5.26	富山市ファミリーパーク園長	〃	副会長
理事	今津 孝二	2022.5.26	2018.5.17	アドベンチャーワールド園長	〃	ブロック代表理事 地域委員長
〃	佐藤 哲也	2022.5.26	2016.5.26	神戸どうぶつ王国園長	〃	生物多様性委員長
〃	多々良成紀	2023.5.23	2023.5.23	宇部市ときわ動物園園長	〃	ブロック代表理事
〃	岡 秀彦	2022.5.26	2020.6.8	市立玉野海洋博物館館長	〃	
代表理事	中村 雅之	2022.5.26	2018.5.17	マリンワールド海の中道館長	〃	副会長
理事	椎原 春一	2022.5.26	2020.6.8	大牟田市動物園園長	〃	ブロック代表理事 総務委員長

〃	佐藤 圭一	2023.5.23	2023.5.23	沖縄美ら海水族館統括	〃	調査研究委員長
〃	原 久美子	2022.5.26	2022.5.26	日本動物園水族館協会専務理事	有	専務理事
監事	錦織 一臣	2022.5.26	2020.6.8	東京都葛西臨海水族園園長	無	
〃	竹下 秀人	2022.5.26	2020.6.8	静岡市立日本平動物園園長	〃	

VIII 議決機関

総 会：年 1 回開催、正会員で構成する。

理事会：理事 17 名で構成し、年 2 回開催する。（臨時理事会はこの限りではない）

IX 執行機関

【会長、副会長、専務理事、執行理事】

執行委員会：委員長、副委員長、委員を置き、事業計画に基づく専門事項の計画、執行を担当する。また、各委員会の下に専門部会を置く。

- ・総務委員会（3 名）：倫理、福祉、地域区分、定款・諸規定、重要な法人管理、その他の委員会に属さない事項に関すること
- ・教育普及委員会（4 名）：園館職員の人材育成、動物園水族館雑誌の発行、一般に対する普及啓発活動に関すること
- ・安全対策委員会（4 名）：園館施設・職員の安全及び衛生対策、災害対策、危機管理などに関すること
- ・生物多様性委員会（5 名）：世界・国内戦略、資源確保、域外保全、種保存などに関すること
- ・調査研究委員会（4 名）：学術研究の調査・推進、動物福祉・動物栄養の調査研究などに関すること
- ・地域委員会（5 名）：地域園館の活性化、人材育成、災害・安全対策など地域間連携、加盟園館、維持会員の拡大などに関すること

地域別会議：各ブロックに代表理事をおき、ブロック内協議会、研修会、研究会等を開催する。

- 関東東北・北海道ブロック ○中部ブロック ○近畿ブロック
○中国四国ブロック ○九州沖縄ブロック

X 将来構想室：会長直轄の組織とし、将来構想室長を置く。JAZA の中長期的な将来ビジョンや戦略を策定する。

XI 事務局：専務理事、事務局長、職員 5 名

XII 諮問機関

顧問（3 名）：専門知識を有し、理事会が推薦した者

会友（104 名）：園館長歴 5 年以上、及び特別な功労のあった者で、理事会が承認した者

XIII 監査機関

監事（2名）：動物園から1名、水族館から1名を選出

第2章 事業概要

1939（昭和14）年に任意団体として発足し、2012（平成24）年には公益法人としての認可を受けた日本動物園水族館協会（以下 JAZA という。）は、これを契機に執行委員会制度の下に体制を強化してきた。

2013（平成25）年には、10年後の動物園・水族館がめざす姿「10年ビジョン」を策定し、いのちの素晴らしさ、儚さ、大切さを実感し、学び、伝える「いのちの博物館」の実現に向けて JAZA 加盟園館が連携して様々な事業を展開してきた。その10年も2022（令和4）年で最終年を迎え、その総括と次の時代に向けた新たなビジョンを策定していかなければならない。そのため、これまでの広報戦略室を新たに会長直轄の将来構想室とし、JAZA の方向性を定める中長期的な将来構想を策定する作業に入った。2023（令和5）年度は園館職員を対象としたワークショップや様々な属性別のアンケート調査、ブレインストーミングなどを行い2025（令和7）年度早期の策定を目指している。また、執行委員会では、教育普及委員会の学術研究部と総務委員会の倫理福祉部、栄養部を統合した新たな調査研究委員会（学術研究部、動物福祉研究部、栄養研究部）を立ち上げ、動物園水族館の重要な役割である調査研究部門を強化した取り組みを始めた。さらには、他組織との連携において、独立行政法人国際協力機構（JICA）の2023年度バングラデシュ国別研修「動物園における施設・飼育管理能力強化プロジェクト」に係る研修を受託し、10名の研修生を受け入れ、会員園館職員による座学講義や会員施設の見学等を実施した。また2022年度に協定を締結した公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会と公益社団法人日本植物園協会との3協会の連携事業「自然と人間との共生フォーラム」の第2回の開催に際し、開催事務局としてウェビナーの企画運営を行い実施した。

一方、現実的な問題として、JAZA を取り巻く環境は年々厳しさを増しており、希少野生動物の保護増殖の重要性はもちろんのこと、高病原性鳥インフルエンザなど各種感染症問題、飼育環境から生じる動物福祉に関する問題、動物事故問題などに対応しなければならない事項も増加してきており、各執行委員会のさらなる活躍が望まれる。なかでも2023年度は世界動物園水族館協会（以下 WAZA という。）の動物福祉2023年目標に対処するため、WAZA に加盟する10園館での動物福祉評価が終わったが、WAZA の承認を得るまでには至っておらず、引き続き調整を行っていく必要がある。また、JAZA 傘下の残る130園館の動物福祉評価も進めていく必要があり、その実施期間や方法についても調整事項が多く困難が予想されるが、JAZA の最重要課題として引き続き取り組んでいく。

第3章 実施事業

I 将来構想室事業

将来構想室は、従来からあった広報戦略室を改変し、協会の基本理念・戦略の作成、協会活動の発信等の基本戦略を更新するための事業を行う。

2013年に策定した10年後の動物園水族館がめざす姿「JAZA10年ビジョン」から10余年が経過し、この間、動物園水族館を取り巻く地球環境や種の保全といった様々な状況は大きく変化した。そのため、これまでの10年を振り返り、これからは何を重視し何に取り組むべきかを検討し、新たな将来構想案を策定していく。

なお、本事業は2023年5月の理事会で了承され、9月の理事会では組織名称と室長が了承されてい

る。

1. 執行体制

将来構想室長 1 名。会長直轄の組織として固定の室員は編成しない。必要に応じて会長、事務局、会員職員を招集する。

2. 事業の実施

(1) 会議の開催

1) 将来構想室設立検討会議 2023 年 6 月 10 日（ウェブ会議）

JAZA のビジョンと価値（バリュー）と戦略を明確にし発信すると共に人材育成に取り組む部門として、広報戦略室と広報戦略会議、特別委員会の機能を整理統合して会長直属の『将来構想室（仮称）』へ再編し名称変更を行う案を作成。

2) 将来構想室設立準備会議 2023 年 7 月 24 日（対面会議）

『将来構想室（仮称）』の構成や事業の推進方法、専門家への事業委託に関する案を作成。

3) JAZA 将来構想プレワークショップ打ち合わせ会議 2023 年 9 月 2 日（ウェブ会議）

将来構想検討の参考となる基礎情報の収集を目的としたプレワークショップを企画し、その実施方法を決定。

4) 将来構想室打ち合わせ会議 2023 年 11 月 19 日、12 月 13 日、2024 年 1 月 5 日、2 月 5 日、3 月 12 日（ウェブ会議）

事業計画および将来構想ワークショップ・将来構想策定のためのアンケートの実施について、アンケートの結果について、将来構想策定のためのブレインストーミング会議の開催について。

(2) ワークショップの開催

1) JAZA 将来構想プレワークショップ 2023 年 9 月 11 日（上野動物園）30 園館 2 団体計 57 名参加

2) JAZA 将来構想ワークショップ 2024 年 2 月 15 日（福岡市内貸会議室）11 園館 15 名参加

(3) その他

1) 各種ワークショップの結果取り纏め

2) 将来構想策定のためのウェブアンケート実施 2024 年 1 月 17 日～2 月 29 日

協会加盟園館職員、加盟園館の協力者、動物園水族館の利用者や一般の方を対象として、将来構想検討の参考となる基礎情報の収集を目的としたアンケートを実施。

3) JAZA10 年ビジョンの検証（継続的に実施中）

4) ワークショップ、アンケート等の情報の分析に基づく現状の把握（継続的に実施中）

5) 現状に基づく方向性や中期的な将来計画の案を作成するための体制と進め方の検討を実施

II 総務委員会事業

総務委員会は協会の根幹となる定款、規定等の整備、情報発信の企画調整、水族館にかかる調整・調査などの事業を実施した。

情報システム運営部においては、公開・非公開の HP および WEB 会議等における情報システム部の役割の検討を行った。

水族館部においてはイルカを含む繁殖支援事業および保護ラッコ導入にむけた各機関との調整を継続した。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長、副委員長、委員 1 名

情報システム運営部：部長、部員 4 名

水族館部：部長、部員 5 名

(2) 委員会、部会の開催

次の委員会・部会を開催し、関係事業を実施するため、議題に基づく意見交換、検討、問題解決、意思決定等を行った。

1) 第 1 回総務委員会

開催日：2023 年 11 月 14 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、委員 1 名、専務理事、事務局長

議 題： ①各部会の今後の展望について
 ②協会としての組織倫理について
 ③会費の検討について

2) 第 1 回情報システム運営部会

開催日：2023 年 7 月 6 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：総務委員長、情報システム運営部長、情報システム運営部員 4 名、専務理事、事務局長

議 題 ①令和 5 年度の活動予定について
 ②HP（会員、一般）のシステムの概要について
 ③会員専用 HP の利便性向上について
 ④一般公開 HP の情報チェックと更新について
 ⑤その他

3) 第 2 回情報システム運営部会

開催日：2023 年 11 月 6 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：総務委員長、情報システム運営部長、情報システム運営部員 3 名、専務理事、事務局長

議 題 ①一般公開 HP のスマートフォンサイトの改善について
 ②CPOS と動物検索について
 ③情報更新の記録と更新漏れ対策について
 ④今後の方向性について
 ⑤会員専用 HP の検索について
 ⑥その他

4) 第 1 回水族館部会

開催日：2023 年 7 月 10 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：部長、部員 5 名

議 題：①繁殖支援事業について
 ②ラッコプロジェクトについて
 ③会議ワークショップの開催について
 ④動物福祉規程・動物福祉基準について

2. 事業の実施

情報システム運営部事業

(1) 公開 HP

- 1) スマートフォンにおける視認性を改善、動物画像を変更した
- 2) 動物検索の課題について検討（検索リンクの不具合、情報更新の漏れ、写真の追加など）
- 3) 各種情報を更新、また更新記録リストを用いて漏れのない体制を構築していく
- 4) JAZA の活動を発信しより多く閲覧してもらえよう、大規模改修も視野に検討していく

(2) 会員専用 HP

- 1) 資料やデータを探しやすくするため、必要最小限の検索システムから検討を開始
- 2) CPOS における和名の課題について検討、種名検討委員会と相談する

(3) 総合

サーバーやデータのバックアップ、運営システムが安定的で持続的であるか確認した

水族館部事業

(1) 繁殖支援事業

バンドウイルカが単独飼育となった園館に対するブリーディングローンを、種別調整者、専門技術員とともに調整・実現

(2) 鯨類プロジェクト

新規保存、利用ともに 0 件

(3) ラッコ保全プロジェクト

アラスカシーライフセンターの保護プロジェクトへの参画を推進中。申請に必要な日本国政府が会員所属園館を承認する書類を、動物取扱業者の承認という形で発行してもらうことで調整

(4) その他

- 1) 新規事業として保全を目的とした小笠原シロワニ調査を申請し、承認された
- 2) 被災した「のとりま水族館」の飼育動物の受入れ園館を調整
- 3) 第 6 回イルカ会議を 3 月 20 日(水)にウェブ会議で開催

3. その他

協賛に関する事項

後援名義等の申請に関する審査…後援 40 件

III 教育普及委員会事業

本委員会を構成する教育研修部・普及啓発部の両部において部会会議を開き、令和 5 年度の事業に関する準備・実施等に関する討議・打ち合わせを経て、諸事業が遅滞なく実施されるように努めた。

環境省との「生物多様性保全の推進に関する基本協定」に基づく事業や取り組み等には積極的な関与を

継続し、(公社)日本動物園水族館協会の存在意義や保全活動内容を社会に広く周知するために努力した。国連生物多様性の10年日本委員会(UNDB-J)」の後継事業である「2030 生物多様性枠組実現日本会議(J-GBF)」へ参画し、ネイチャーポジティブの実現に向けて協力した。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長1名 副委員長1名 委員2名

教育研修部：部長1名 部員5名

普及啓発部：部長1名 部員5名

(2) 委員会、部会の開催

1) 第1回教育普及委員会

開催日：2023年7月6日 開催方法：対面会議(ニフレル)

出席者：委員長他4名

議題：①JAZA全体の動きについて

②普及啓発部の今年度の事業、課題について(参加型研修会について、環境省との連携イベントについて)

③教育研修部の今年度の事業、課題について(飼育技師認定試験について他)

2) 教育研修部第1回会議

開催日：2023年5月8日 開催方法：ハイブリッド(JAZA事務局)

出席者：委員長他7名

議題：①上級試験について②上級試験の結果について③今後のスケジュール変更について

3) 教育研修部第2回会議

開催日：2023年7月5/6日 開催方法：対面(ニフレル)

出席者：委員長他9名

議題：①飼育技師試験(上級)について

②飼育技師試験(一般)について

③各委員会・部会等名称の英語表記について

④その他

4) 教育研修部臨時部会

開催日：2023年8月29日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長他7名

議題：①上級試験について

5) 教育研修部臨時部会

開催日：2023年10月23日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長他7名

議題：①上級試験について

6) 教育研修部第3回会議

開催日：2024年1月30/31日 開催方法：対面(スマートレンタルスペース御徒町)

出席者：委員長他8名

議 題：①JAZAの動向について ②飼育技師資格認定試験について ③令和6年度教育研修部
事業計画について ④その他

7) 普及啓発部臨時部会

開催日：2023年11月2日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長他6名

議 題：①J-GBFネイチャーポジティブ宣言について

8) 普及啓発部第1回会議

開催日：2023年11月23, 24日 開催方法：対面（事務局会議室）

出席者：委員長他6名

議 題：①2023年度上半期事業報告 ②参加型研修会 ③その他（環境省中央行事出展対応）

9) 普及啓発部第2回会議

開催日：2024年3月22日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長他8名

議 題：①参加型研修会報告 ②来年度の事業計画について ③その他

2. 教育研修部事業

(1) 飼育技師認定試験の実施 34会場

2024 年1月15日13:00~15:00

受験申込者動物260名（内 6名欠席）合格者208名 合格率81.9 % 平均点80.9

受験申込者水族119名（内 3名欠席）合格者107名 合格率92.2 % 平均点84.9

* 2024年2月23日の飼育技師資格認定委員会で承認

(2) 飼育技師上級試験の実施

2024年1月15日10:00~12:00

受験申込者上級150名（内 5名欠席）合格者60名 合格率41.3% 平均点67.7

* 2024年2月23日の飼育技師資格認定委員会で承認

3. 普及啓発部事業

(1) 動物園・水族館参加型研修会（ワークショップ）

動物園

2024年1月18~19日 浜松市動物園担当

テーマ：動物園を活用したSDGsを伝える教育プログラムの開発

講 師：原田一宏教授（名古屋大学大学院生命農学研究科）

参加者：22 園館 33 名 その他13名 計46名

水族館

2023年12月13~14日 ニフレル担当

テーマ：「心に響く」紙芝居の創作

講 師：梅花女子大学 心理こども学部准教授 高畑 芳美氏

参加者：21園館 25名

(2) JAZA主催の動物愛護に関する標語募集

第48回動物愛護に関する標語コンクール中央審査実施

- 1) 開催日：2023年8月21日(月)12:00~15:30
- 2) 場 所：協会事務局会議室
- 3) 審査員：4名（環境省動物愛護管理室長補佐 後藤瑞枝、演芸家 江戸家小猫、成城大学法学部教授 打越綾子、会長 村田浩一）
- 4) 中央審査対象標語 165点(参加園館：42園館、応募総数：6,192点)
- (3) 環境省主催のイベントへの参加
 - 1) 2023年9月23日：東京国際フォーラムで開催された動物愛護管理法制定50周年記念「どうぶつ愛護フェスティバル」において、シンポジウムで発表（成島顧問）
「動物園・水族館の飼育展示と動物愛護管理法」と題したパネルを展示した。
 - 2) 2023年11月23日：動物愛護週間中央行事（上野公園にて開催）へのブース出展を実施した。
例年行っている環境省との共同出展は、外来生物対策室からの依頼はなく、今回はJAZA単独での出展となった。
 - 3) 新宿御苑みどりフェスタ、「GTFグリーンチャレンジデー」については、環境省からの依頼がなかったため、参画は見送った。
- (4) ネイチャーポジティブに関する環境省との連携
 - 1) 2030 生物多様性枠組実現日本会議（J-GBF）行動計画に JAZA の取組みを明記
 - 2) 8月1日に J-GBF 幹事会に参加（教育普及委員長、普及啓発部長）
 - 3) 9月12日に J-GBF 総会に参加（会長、教育普及委員長）
 - 4) ネイチャーポジティブ宣言の検討
 - 5) 今後連携企画の実施を予定
- (5) サバ州生物多様性保全推進プロジェクトへの協力
 - 1) プロジェクトチーム会議に参加し、教育普及実務担当者ワークショップの開催に協力（3/19井の頭自然文化園で実施）

IV 安全対策委員会事業

安全対策部、災害対策部、感染症対策部が、事故や災害、感染症等に対する事前の準備と予防対策、発生時の対応などについて、会員園館への情報発信等の事業を行った。

安全対策部は、安全な飼育や施設管理のための会議開催、事故防止のための情報提供などを行い、事故発生時には注意喚起を行っている。

災害対策部は、台風等による大雨被害や地震被害等の情報収集と共有を行い、被災した会員の支援等を行った。

感染症対策部は、国内外での感染症事例について、会員園館への情報共有と注意喚起を行った。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長1名 副委員長（部長兼務）1名 委員2名

安全対策部：部長1名 部員5名

災害対策部：部長1名 部員5名

感染症対策部：部長 1 名 部員 5 名

2. 安全対策部事業

- (1) 飼育動物に係る事故発生を受け情報収集と注意喚起を行った。
- (2) 第 33 回日本動物園水族館設備会議
開催日：2023 年 11 月 29 日～30 日 開催方法：対面（男鹿水族館 GAO）
出席者：39 園館 71 名、維持会員 24 社 64 名、JAZA 派遣 1 名、会友その他 7 名
研究発表：8 題、宿題調査報告 1 件。全体討議 3 件、ポスター発表 11 件
- (3) 第 35 回大型動物麻酔研究会
開催日：2023 年 11 月 7 日～8 日 開催方法：対面（熊本市動植物園）
出席者：13 園館 24 名、オブザーバー参加 2 園館 2 名、安全対策委員長、
研究発表：7 題、その他懇談事項
- (4) 第 31 回ゾウ会議
開催日：2023 年 11 月 27 日～28 日 開催担当：名古屋市東山動物園
出席者：40 園館 81 名、JAZA 派遣 2 名、その他 1 名
研究発表：12 題、ポスター発表 3 題、宿題調査報告、全体討議 1 題、
- (5) 動物飼育における安全対策：過去の事故発生事例と対策、現場検証からの知見等を参考として取りまとめた「特定動物の安全対策ガイドライン」を 8 月 4 日会員ホームページに公開した。会員園館における安全対策に有用な情報として、各園館のガイドライン等作成や見直しを進めるための参考とするもの。また、1 月 26 日に安全対策研修会オンライン開催により解説すると共に、研修会動画を 2 月 29 日会員ホームページに公開した。
- (6) その他の安全対策：入園者の負傷事故、大型動物輸送における死亡事故、動物の逸走事例等も安全対策の対象とし会員園館における情報共有と再発防止のための注意喚起等を行うこととし、①特定動物に係る事故は原則報告をお願いする。（必要に応じて現地調査）②マスコミ等に取り上げられた事案も、その対応等のため情報共有していただくよう協力をお願いする。

3. 災害対策部事業

- (1) 災害発生への対応：災害発生と共に被害状況等の情報収集を行った。一部に臨時休園館はあったものの、いずれも大きな被害はなかった。（1 月 1 日能登半島地震を除く）
- (2) 対応した主な災害発生：令和 5 年 5 月 5 日石川県能登地方地震、5 月 11 日千葉県南部地震、5 月 26 日千葉県東方沖地震、6 月 2 日台風 2 号に伴う大雨等（九州沖縄、関西他）、7 月 3 日大雨等（九州沖縄）、7 月 10 日大雨等（九州）、7 月 15 日大雨等（東北）、8 月 3 日～10 日台風 6 号に伴う大雨等（九州沖縄）、8 月 15 日台風 7 号に伴う大雨等（近畿、中国四国、中部、関東）、9 月 9 日台風 15 号に伴う大雨等（関東）
- (3) 令和 6 年 1 月 1 日能登半島地震により被災した「のとじま臨海公園水族館」への支援
地震発生直後から該当エリアにある園館の被災状況に係る情報収集開始。翌 2 日のとじま水族館が甚大な被災を受けたことを確認。災害対策部と事務局により支援体制を構築し、収集した被害情報全般を会員園館に通知するとともに今後の支援を呼びかけた。災害対策部員等による現地調査、救援物資の提供、動物の緊急避難移動、見舞金受付けなどの取り組みを行っている。

- (4) 環境省水鳥救護研修センター運営協議会（7月）現地参集開催出席により情報収集した。
- (5) 災害時救援活動の連携体制：災害発生時の迅速な情報収集と共有方法について、ブロック園館長会議での意見を反映し検討していく。災害発生時のより緊密な救援体制確立を目指し、物資運搬等支援のための運搬方法や合同訓練等について調査検討を進めている。

4. 感染症対策部事業

- (1) 国内で発生し拡大等が懸念される感染症（高病原性鳥インフルエンザ、豚熱、新型コロナウイルス感染症）について情報収集し、会員園館への情報共有と注意喚起を行った。
- (2) 動物園・水族館における新型コロナウイルス感染症対策：令和5年5月8日の感染症法上の位置づけ変更と合わせ政府の基本的対処方針及び業種別ガイドライン廃止に伴い、「動物園・水族館における新型コロナウイルス感染対策ガイドライン」についても同日付をもって廃止した。その後は、事業者の自主的な感染対策が基本であるものの、飼育動物と来園館者の感染防止に努めていくため各園館へ適宜参考情報等を提供していく。
- (3) 高病原性鳥インフルエンザ発生事例の確認を受け、その都度の会員園館への情報共有と注意喚起を行った。また、希少種における高病原性鳥インフルエンザ感染が懸念されることから、その対策として治療薬適用と備蓄について検討し、6園館での備蓄と必要な園館への配布体制を整備した。（今シーズンは会員園館での発生事例はなかった。）
- (4) 環境省「動物園等における飼養鳥に関する高病原性鳥インフルエンザへの対応指針」が改訂されたことから、10月12日会員に情報共有するとともに、これに係る研修会を12月1日にウェブにより開催した。

5 その他

安全対策委員会の開催：1月11日、現地参集により開催し、事業の進捗と課題などについて各部長と共有し、今後の取り組みについて意見交換した。同日に災害対策部会議も開催した。

V 生物多様性委員会事業

今年度は、対面での開催は4年ぶりとなる種保存会議(第23回)を大阪で開催した。類別の分科会は事前にオンラインで各類別、日程をずらして実施した。公開シンポジウムも併せて開催し、一般からも多数の参加者があった。本会議では台北動物園、アルアイン動物園などの海外参加があった。次回開催予定は横浜市となっている。

各種事業全般にコロナ前の状態に戻りつつあるが、環境省からの受託業務はおおむね順調であり、昨年野生復帰したライチョウは今年度繁殖が確認されており、順調に命をつないでいる。

問題点としてはスジシマドジョウ類の飼育繁殖技術開発に関して、タンゴスジシマドジョウの担当施設が閉館したが、新たな担当施設の無い状態が続いている。

一般社団法人野生生物生息域外保全センター（令和4年度末締結済）、一般社団法人日本水族館協会と野生動物の保全に関する包括協定を結び、今後、連携して種の保存事業に取り組むこととしている。

JAZA10年ビジョンの期間満了（2023年）を見据え、次の10年に向けた戦略の検討を行なう。

全体的に人材不足であり、世代交代を見据えながら委員、部員の人材育成を図る必要がある。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長 1 名、副委員長 1 名、委員 3 名、外部委員 2 名

国際保全事業部：部長、部員 4 名

保全戦略部：部長、副部長、部員 6 名

種保存事業部：部長、部員 12 名

作業部会：類別事業調整者、類別事業副調整者、種別計画管理者・個体群管理者、専門技術員

(2) 委員会、部会の開催

次の委員会・部会を開催し、関係事業を実施するため、議題に基づく意見交換、検討、問題解決、意思決定等を行った。

1) 第 1 回生物多様性委員会開催

開催日：2023 年 4 月 26 日～27 日

場 所：東京都恩賜上野動物園（ウェブ会議システムも併用）

出席者：4 月 26 日：12 名（委員長、副委員長、国際保全事業部長、保全戦略部長、種保存事業部長、種保存事業部員（類別事業調整者） 7 名）

4 月 27 日：14 名（委員長、副委員長、国際保全事業部長、保全戦略部長、種保存事業部長、種保存事業部員（類別事業調整者） 5 名、事務局 4 名（一部出席：専務理事、事務局長））

議 題：①令和 4 年度種保存事業の進捗状況評価について ②令和 5 年度事業の執行計画について
③その他

2) 第 2 回生物多様性委員会（三部合同会議）開催

開催日：2023 年 5 月 30 日～31 日

場 所：神戸どうぶつ王国（ウェブ会議システムも併用）

出席者：31 名（委員長、副委員長、国際保全事業部 3 名（部長、部員 2 名）、保全戦略部 8 名（部長、部員 7 名）、種保存事業部 13 名（部長、部員 11 名、代理 1 名）、外部委員 1 名、事務局長、事務局員 2 名、その他に種別計画管理者数名出席あり）

議 題：①令和 4 年度事業報告及び令和 5 年度事業計画の概要報告 ②令和 5 年度事業の課題について ③その他

3) 第 3 回生物多様性委員会

開催日：2023 年 10 月 26 日

場 所：天王寺動物園

出席者：5 名（生物多様性委員長、副委員長、国際保全事業部長、保全戦略部長、種保存事業部長、）

議 題：①第 23 回種保存会議及びシンポジウムの運営について②次年度の事業計画の策定について
③その他

4) 第 4 回生物多様性委員会

開催日：2024 年 2 月 28 日～29 日

場 所：神戸どうぶつ王国（ウェブ会議システムも併用）

出席者：28 日 6 名（生物多様性副委員長、国際保全事業部長、保全戦略部長、種保存事業部長、オブザーバー 2 名）29 日 8 名（+オブザーバー 2 名）

議 題：①令和 6 年度事業計画について ②各部の課題、委員会業務全般に関わる懸案事項等について

て ③その他

5) 第1回保全戦略部会

開催日：2023年10月16日

場 所：東京都恩賜上野動物園

出席者：5名（保全戦略部長、副部長、小型哺乳類事業調整者、アマミトゲネズミ計画管理者）

議 題：①令和5年度アマミトゲネズミ繁殖計画における繁殖供用個体選定及び移動計画の策定

②その他

2. 国際保全事業部事業

(1) 国際的な連携、協働を要する展示生物の継続的確保や保全への取り組みに関する事項

1) 国際会議への参加

- ① 米国のサンディエゴで10月に開催されたIUCN SSC 動物バイオバンキング専門家グループ(ABC SG: Animal Biobanking for Conservation Specialist Group)会議に国際保全事業部長が参加し、ネットワーク構築に関する意見交換を行った。
- ② 米国のサンディエゴで10月に開催されたIUCN SSC 保全計画専門家集団(CPSG)年次会議に国際保全事業部長が参加し、意見交換と情報収集を行った。
- ③ 米国のサンディエゴで10月に開催された世界動物園水族館協会(WAZA)年次総会に国際保全事業部長が参加し、JAZAに関する情報の発信と情報収集を行った。
- ④ GSMP 会議が開催された場合に当該種の計画管理者を派遣する予定であったが、2023年度にGSMP 会議は開催されなかった。

2) アジア及びその周辺地域でのネットワーク構築・サポート事業

- ① 東南アジア動物園水族館協会(SEAZA)に対して、マレーシアのタイピンで11月に開催されたSEAZA 総会において、第3回アジア地域協会連携会議での個体群管理に関する合意事項を推進すべく協議してもらえよう働きかけた。
- ② 台湾の台北で11月に開催された動物園の基本計画・デザイン計画会議に参加し、情報の収集と意見交換を行った。
- ③ 10月に大阪で開催された種保存会議への参加をアジアの各地域協会に呼びかけ、台湾の台北動物園とアラブ首長国連邦のアルアイン動物園が参加したため、会議において国際連携に関するセッションを実施するとともに、2施設への支援を行った。
- ④ 10月に大阪でアラブ首長国連邦動物園水族館協会との対面による個別協議を行い、今後の連携構築について双方で検討を進め、継続的に連絡を取ることで合意した。

3) マレーシア・サバ州との生物多様性保全に関わる連携事業

- ① 令和5年度第一回サバ州生物多様性保全推進プロジェクトチーム(PT)会議を4月にウェブ会議で開催した。
- ② 令和5年度第二回サバ州生物多様性保全推進プロジェクトチーム(PT)会議を10月にウェブ会議で開催した。
- ③ 教育普及事業実務担当者会議を12月にウェブ会議で開催した。
- ④ 教育普及事業ワークショップならびに実務担当者会議を3月に対面で開催した。

4) 飼育下個体群管理のための飼育動物個体情報の管理共有推進

- ① Species360 との連携により ZIMS の日本語精度の向上を進めた。
- ② 10 月に大阪で、12 月に東京で開催された個体群管理講習会にあわせて ZIMS for Studbooks の使用方法説明講習を実施した。
- ③ Species360 との個別協議や理事会への参加により、JAZA やアジア地域協会の Species360 への影響力強化を図った。
- ④ JAZA が ZIMS for Studbooks で管理している登録簿データのアドミニストレーターとして、計画管理者の追加変更や登録内容修正などのデータベース管理を行った。
- ⑤ Species360 との連絡窓口を務めるとともに、ZIMS に関する問い合わせ等に対応した。
- ⑥ 3 月(前年度)にハイブリッドで開催された WAZA の個体群管理委員会(CPM: Committee for Population Management) 世界動物園水族館個体群管理ワークショップ(Global Zoo and Aquarium Population Management Workshop)にウェブで参加し、JAZA の飼育下個体群管理の状況に関するプレゼンを行った。
- ⑦ 7 月にオンラインで WAZA の CPM 委員長ならびに WAZA 事務局 CPM 担当者との個別協議を行い、WAZA の個体群管理目標 2027 の説明を受けるとともに、JAZA の状況を説明した。
- ⑧ 個体群管理目標 2027 の草案について JAZA 三役ならびに生物多様性委員会で意見を取り纏め、7 月に CPM に対して回答した。
- ⑨ 9 月にウェブで開催された WAZA の CPM 会議に参加した。
- ⑩ 9 月の理事会において、JAZA の CPM 対応を国際保全事業部長とすることが承認された。
- ⑪ 10 月に開催された WAZA 年次総会で、JAZA の個体群管理の状況に関するプレゼンを行った。
- ⑫ WAZA の CPM から国際血統登録担当者の変更に関する照会を受け、適当性について検討を行い、CPM へてに回答した。(アノア、バンテン、ビクーニャ、アルバアイランドガラガラヘビ、キンゴシライオンタマリン)

5) 海外情報の会員周知

- ① WAZA の個体群管理目標 2027 やリバーズ・ザ・レッド キャンペーンなど、各種海外情報を関係者に周知した。
 - ② 情報の翻訳委託を実施した
- (2) 正会員所属園館の展示生物の収集に関する情報提供、助言及び支援に関すること（ただし、保全戦略部に属する業務を除く）
- 1) 経済産業省との連絡調整会議

12 月 15 日に経済産業省本庁舎で開催し、動物の輸出入に関する手続き確認や JAZA 事業への支援の依頼を行った。(南アフリカからの動物輸入に関する事業など)
 - 2) 会員園館からの問い合わせ等に対する対応を行った。(南アフリカからの動物輸入に関する事業など)
- (3) 種保存事業の実施に係る助言および支援に関すること（ただし、保全戦略部に属する業務を除く）
- 1) 類別事業調整者、種別計画管理者への支援および助言を実施
 - ① 海外からの個体の入手に関する調査を実施（マレーグマ）
 - ② 海外の類別事業調整者、種別計画管理者から国内の関係者への連絡を受け、橋渡しを実施
 - ③ インドネシア Batu Secret Zoo の JAZA レッサーパンダ個体群管理計画への参加を調整した。
 - ④ 台湾動物園水族館協会(TAZA)の JAZA レッサーパンダ個体群管理計画への参加にあたって、

TAZA と JAZA の覚書の締結を調整した。

- ⑤ 台湾動物園水族館協会（TAZA）の JAZA マレーグマ個体群管理計画への参加希望について調整した。

2) その他事業

必要に応じて実施

(4) その他国際保全業務に関する事項

部員の欠員に対して 1 名の補充を行った。

3. 保全戦略部事業

(1) 日本の動物園水族館の生物多様性保全戦略に関する事項

- 1) WAZA の世界動物園水族館保全戦略・福祉戦略等を踏まえ、委員会の各事業における戦略的取組を促進する。

- ・ 委員会の各事業における戦略的取組の促進に資することを企図し、第 23 回種保存会議の課題討議のテーマとして「ワンプラン・アプローチの実現に向けて」を設定し、生息域外保全と生息域内保全の連携を図るための具体的方策について議論した。その他、三部合同会議等の機会を捉え、種保存事業の実施に当たっての戦略的助言を行った。

- 2) 「JAZA10 年ビジョン」の期間満了（2023 年）を見据え、次の 10 年に向けた戦略の検討を行う。

- ・ ポスト 10 年ビジョンと言うべき「JAZA 将来戦略」の策定が 2023 年 9 月に着手されたばかりのため、検討できない状況。

(2) 生息域内・域外の統合された保全への取り組みに関する事項

1) 生物多様性保全の推進に関する基本協定書に基づく取り組みの着実な推進

① 環境省からの受託業務

a) ツシマヤマネコ飼育下繁殖及び飼育管理に係る検討業務

- ・ 令和 5 年度第 1 回ツシマヤマネコ飼育管理検討会議の開催

2023 年 7 月 12 日～13 日 於：富山県民会館

- ・ 令和 5 年度第 2 回ツシマヤマネコ飼育管理検討会議の開催

2023 年 9 月 26 日～27 日 於：井の頭自然文化園

- ・ 会議の結果を踏まえ、開 R5-R6 年ツシマヤマネコ飼育下繁殖計画（案）を作成、環境省九州地方環境事務所長に提出し、承認を得たうえで順次個体移動を実施予定。

b) ライチョウの野生復帰及び生息域外保全検討業務

- ・ 令和 5 年度第 1 回ライチョウ飼育管理検討会議

2023 年 11 月 1 日 ウェブ会議開催

- ・ 令和 5 年度第 1 回ライチョウ飼育管理検討会議

2024 年 1 月 22 日 対面及びウェブ併用で開催

c) 希少野生動物の生息域外保全検討業務

ア) トゲネズミ類の飼育管理検討業務

- ・ 令和 5 年度アマミトゲネズミ飼育管理検討会議の開催

2023 年 9 月 13 日 於：京都大学東京オフィス（ウェブ併用）

- ・令和5年10月16日に開催された第1回保全戦略部会において、令和5年度アマミトゲネズミ繁殖計画における繁殖供用個体の選定及び移動計画の策定を実施。
- ・環境省主催で2023年10月23日に開催された令和5年度第1回トゲネズミ類生息域外保全検討作業部会（ウェブ会議開催）において、繁殖計画及び移動計画を提出し、承認を得たため、移動計画に基づく個体の移動を順次実施。

イ）ミヤコカナヘビの飼育管理検討業務

- ・令和5年度ミヤコカナヘビ飼育管理検討会議の開催
2023年12月14日、宮古島市クリーンセンターに於いて開催

ウ）スジシマドジョウ類の飼育繁殖技術開発

- ・タンゴスジシマドジョウの飼育繁殖を担う宮津エネルギー研究所水族館が、親会社の意向を受けて令和5年5月末を目途で閉館することとなった。そのため、当初予定をしていた令和5年度における飼育繁殖計画そのものの実施が困難となり、計画を大きく変更せざるを得ない状況となった。なお、宮津エネルギー研究所水族館において保護増殖のために飼育していた10個体については近畿大学農学部へ移動した。
- ・飼育・繁殖・管理技術の開発に関する研修会・技術指導については、4月から5月にかけての人工繁殖時において、電話やビデオ通話などを用いて、人工繁殖にむけた打ち合わせ、技術指導などを行った。人工採卵の技術取得については、今回が3回目ということもあり、担当者の技術も向上している。現在は誕生したF2個体の飼育や成長に関する手法などについて情報を共有しながら、飼育技術の向上を行っている。

エ）希少野生動物の生息域外保全に関する連絡会議

- ・第1回会議を2023年8月8日に井の頭自然文化園で開催（ウェブ併用）
- ・第2回会議は2024年2月16日にウェブ会議開催。

② 受託業務以外の取り組みの実施

a) 小笠原産陸生貝類（カタマイマイ属など）

例年、環境省主催の陸産貝類保全ワーキンググループに保全戦略部員が出席しているが、今年度は開催されなかった。

b) 環境省担当官との連絡調整等

随時、メールや電話による打ち合わせを実施している。

2) IPPM-OWS（コウノトリの個体群管理に関する機関・施設間パネル）との連携

国際保全事業部長がIPPM-OWSの代表を、保全戦略部副部長がIPPM-OWS生息域内保全作業部会の副部会長を務めているほか、コウノトリ計画推進会議をIPPM-OWSの生息域外保全作業部会と共同開催するなど、IPPM-OWSの組織運営や活動を共同で実施している。

3) 一般社団法人野生生物生息域外保全センターとの連携

令和4年度末に包括協定を締結したが、具体的な連携に関しては未検討。

CITES違反の緊急保護受け入れができるようにするため、事務局で経産省と調整を行い、寄託管理施設として認められる。

(3) 正会員所属園館の展示生物の収集に関する情報提供、助言および支援に関する事項（ただし、国際保全事業部に属する業務を除く）正会員所属園館からの要望がなく、実績なし。

(4) 種保存事業の実施に係る助言及び支援に関する事項（ただし、国際保全事業部に属する業務を除く）

1) 個体群管理ハンドブックの制作検討

海外地域協会（AZA,EAZA）を参考に内容の検討を行っているが、相互の組織体制等が異なり、作業が難航している。集団遺伝学、個体群統計学などの技術的内容に特化したものにする方向で引き続き取り組む。

2) 個体群管理講習会（年3回）

第1回講習会を10月28日～29日に第23回種保存会議と連動して大阪・天王寺動物園で開催（14名参加）。第2回は12月4日～5日に東京・しながわ水族館で開催（19名参加）、第3回は実施せず。

3) 種保存事業の推進のための各種共同研究の実施

4) 種保存事業作業部会、種別計画推進会議等への保全戦略部員の出席要請対応

7月に霊長類作業部会の要請で個体群管理勉強会に講師派遣。

(5) 配偶子バンク及び遺伝子資源保存等に関する事項

1) 既存配偶子バンクの維持管理の実施

液体窒素の充填は定期的に実施している。維持管理のための消耗品等の購入は年度末に指定施設からの請求に基づき実施。保存配偶子の廃棄処分は未だ方針が定まらず保留。

2) 配偶子バンク指定施設の新規指定

天王寺動物園と宇部市ときわ動物園を新規に指定。

3) 野生動物保全繁殖研究会大会への出席

8月に東京で開催された大会に副委員長、保全戦略部長、副部長、中川部員が出席。

4) ZARAS（動物園水族館繁殖研究アライアンス）との協定に基づく事業の実施。

生体からの精液の採取と凍結保存をトラ、ホッキョクグマ等を対象に実施検討中。

(6) ワシントン条約緊急保護動物の寄託管理に関する事項

事務局対応。必要に応じて適切な収容先の選定や種の同定に協力。

(7) 動物名検討事業に関する事項。

1) CPOSの動物リスト未掲載種の和名の検討を行う。

2) CPOSの動物リスト記載済みの種の和名の妥当性について随時、再検討を行う。

3) 動物名検討会議の開催

2024年3月18日、ウェブ会議で「CPOSに関する打ち合わせ」として開催。JAZA事務局、保全戦略部長、情報システム運営部長の間で、CPOSの運用及び動物名表記の問題点についての基本的な共通認識は形成された。

(8) 関係官公庁との連携協働に関する事項

1) 環境省：生物多様性保全の推進に関する連絡調整会議の開催

2月16日実施した。

2) その他の官公庁：必要に応じて随時、適切に対処。

対応を要する案件がなく、実績なし。

(9) その他保全戦略業務に関する事項

対応を要する案件がなく、実績なし。

4. 種保存事業部事業

(1) 種保存事業の実施に関する事項

第23回種保存会議開催

担当園：天王寺動物園

開催日 2023年10月27日～29日に開催

※分科会は10/10（火）～13（金）に開催

出席者（会議）：208名（来賓4名（環境省2名、経済産業省1名、水産庁1名）、会長、副会長2名、専務理事、会員園館：96園館180名、非会員園館2園館2名、会友1名、生物多様性委員会5名（委員長、副委員長、部長3名）、生物多様性委員会外部委員1名、海外協会：4団体8名、事務局長、事務局員2名）

議題：①生物多様性委員会報告 ②事例報告 ③作業部会報告 ④課題討議 ⑤全体討議

研究発表：ポスター発表：22題

シンポジウム「動物園水族館でつなぐ命 -自然と共生する世界を目指して-」

基調講演1名、事例報告4名、パネルディスカッション5名

参加者：170名程度（会議参加者含む）

(2) 各種作業部会・計画推進会議ほか

1) 第1回小型サル類・キツネザル類合同計画推進会議開催

開催日：2023年7月3日

場 所：東京都恩賜上野動物園（オンライン会議システムも併用実施）

出席者：9名（霊長類事業調整者1名、霊長類事業副調整者2名、ロリス・マーモセット類・キツネザル類計画管理者3名、ロリス・マーモセット類・キツネザル類専門技術員3名）

議 題：①令和5年度飼育状況報告 ②令和5年度各種実施計画について ③その他

2) アジアゾウ計画推進会議開催

開催日：2023年7月3日

場 所：東京都恩賜上野動物園

出席者：18名（保全戦略部長1名、アジアゾウ計画管理者1名、アジアゾウ専門技術員5名、アフリカゾウ個体群管理者1名、アフリカゾウ飼育園代表者4名、オブザーバー5名、アドバイザー1名）

議 題：①日動水生物多様性委員会報告 ②国内飼育状況 ③2022年管理計画の経過報告 ④2023年度アジアゾウ種管理計画について ⑤その他

3) 霊長類作業部会開催

開催日： 時：2023年7月3日～4日

場 所：東京都恩賜上野動物園（オンライン会議システムも併用）

出席者：20名（霊長類事業調整者1名、霊長類事業副調整者2名（計画管理者及び個体群管理者兼務あり）、霊長類計画管理者11名、霊長類個体群管理者1名、霊長類維持種担当者4名、オブザーバー1名（会員園館））

議 題：① 飼育状況・計画報告 ②3部合同会議報告 ③JCP見直し ④その他

4) 霊長類作業部会個体群管理勉強会開催

開催日： 時：2023 年 7 月 4 日～5 日

場 所：東京都恩賜上野動物園（オンライン会議システムも併用）

出席者：12 名（霊長類事業副調整者 1 名(計画管理者及び個体群管理者兼務あり)、霊長類計画管理者 6 名、霊長類個体群管理者 1 名、霊長類専門技術員 2 名、オブザーバー1 名（会員園館）、講師 1 名）

議 題：個体群管理ソフトの基本的な操作方法習得と繁殖計画立案

5) バンドウイルカ、カマイルカ合同計画推進会議開催

開催日：2023 年 7 月 10 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：29 名（海獣類事業調整者 1 名、カマイルカ計画管理者 1 名、バンドウイルカ専門技術員 3 名、カマイルカ専門技術員 1 名、総務委員会委員長、総務委員会水族館部 5 名（部長、部員 4 名）、鯨類飼育園館職員 13 園館 17 名）

議 題：①各種管理計画の進捗について ②水族館部事業について ③鯨類プロジェクトについて ④その他

6) オオアrikui 計画推進会議開催

開催日：2023 年 7 月 12 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：15 名（有袋類その他事業調整者 1 名、オオアrikui 計画管理者 1 名、専門技術員 4 名、オオアrikui 飼育担当者・獣医師 8 名、講演者 1 名）

議 題：①各園の飼育状況報告 ②国内血統登録状況報告 ③特別講演「オオアrikui の病気の傾向と治療方法」（中山侑氏(千葉)） ④その他

7) キリン計画推進会議開催

開催日：2023 年 7 月 12 日～13 日

場 所：熊本市動植物園

出席者：7 名（有蹄類事業調整者 1 名、キリン計画管理者 1 名、キリン専門技術員 5 名）

議 題：①各ブロックからの報告 ②アミメ系キリンの繁殖計画について ③マサイキリンの今後について ④過長蹄とその対策 ⑤その他

8) マレーグマ計画推進会議開催

開催日：2023 年 7 月 13 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：2 名（食肉類事業調整者（マレーグマ計画管理者）1 名、マレーグマ専門技術員 1 名）

議 題：①専門技術員退任に伴う補充、人選について ②単性飼育解消を目的とした国内移動計画の進捗状況 ③ホッキョクグマ計画推進会議への出席について ④その他

9) ツシマヤマネコ計画推進会議開催

開催日：2023 年 7 月 13 日

場 所：富山県民会館（オンライン会議システムも併用）

出席者：41 名（生物多様性委員長 1 名、ツシマヤマネコ計画管理者 1 名、保全戦略部長 1 名、保全戦略部員 2 名、専門技術員 5 名、飼育園館職員 19 名、研究協力者 3 名、環境省職員 6

名、オブザーバー3名)

議 題：①令和5年度ツシマヤマネコ飼育下繁殖及び飼育管理に関する検討業務体制について
②ツシマヤマネコ飼育下個体群（野生復帰対象外）管理ハンドブックの改訂について
③令和5年～6年ツシマヤマネコ飼育下繁殖計画（種管理計画）について ④ツシマヤマ
ネコの遺伝的疾患および遺伝的多様性に関する研究報告 ⑤その他

10) コアラ計画推進会議開催

開催日：2023年7月19日～20日

場 所：埼玉県こども動物自然公園

出席者：33名（有袋類その他事業調整者1名、コアラ計画管理者1名、コアラ専門技術員6名、
コアラ飼育園館関係者25名、講演者1名）

議 題：①国内血統登録状況報告 ②飼育状況報告 ③特別講演「補助的なビタミンD供給が飼育
下コアラの健康状態や繁殖に与える効果に関する研究調査（東京動物園協会 伊藤香緒里
氏） ④全体討議 ⑤その他

11) 第1回アムールヒョウ計画推進会議開催

開催日：2023年7月27日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：8名（アムールヒョウ計画管理者1名、アムールヒョウ専門技術員4名、オブザーバー
3名（会員園館3園館））

議 題：①アムールヒョウ繁殖計画について ②その他

12) テナガザル類計画推進会議開催

開催日：2023年9月7日

場 所：鯖江公民館（オンライン会議システムも併用）

出席者：26名（霊長類事業調整者1名、霊長類事業副調整者3名、テナガザル類専門技術員4名、
テナガザル類維持種担当者1名、オブザーバー17名（会員園11園））

議 題：①飼育状況報告 ②飼育ハンドブックについて ③繁殖制限手法について ④その他

13) アムールトラ計画推進会議開催

開催日：2023年9月6日～7日

場 所：札幌市円山動物園（オンライン会議システムも併用実施）

出席者：11名（食肉類事業副調整者1名、アムールトラ計画管理者1名、アムールトラ専門技術
員6名、スマトラトラ計画管理者1名、オブザーバー2名（会員園1園））

議 題：①国内のアムールトラ飼育状況 ②令和5年移動推奨案について ③その他

14) スマトラトラ計画推進会議開催

開催日：2023年9月13日～14日

場 所：名古屋市東山動物園

出席者：6名（スマトラトラ計画管理者1名、スマトラトラ専門技術員3名、アムールトラ計画
管理者1名、オブザーバー1名（会員園））

議 題：①現状と課題の確認 ②今後の繁殖計画と具体的な取り組みについて ③GSMP マスター

プラン 2023-2025 について ④その他

15) ニホンコウノトリ計画推進会議開催

開催日：2023 年 9 月 19 日

場 所：兵庫県立コウノトリの郷公園

出席者：22 名（ニホンコウノトリ計画管理者 1 名、ニホンコウノトリ飼育園館職員 12 園館 21 名
（うち非加盟園館 4 園館 6 名））

議 題：①令和 5 年生息域外個体群の繁殖等の報告 ②令和 6 年繁殖・移動計画案 ③その他

16) マンドリル計画推進会議開催

開催日：2023 年 9 月 20 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：7 名（霊長類事業副調整者 2 名、マンドリル計画管理者 1 名、マンドリル専門技術員 4 名）

議 題：①令和 5 年度霊長類作業部会の報告 ②個体群の現状と繁殖計画の進捗状況 ③ハンドブック作成について ④その他

17) チンパンジー計画推進会議開催

開催日：2023 年 9 月 20 日～21 日

場 所：仙台市八木山動物園

出席者：9 名（霊長類事業調整者 1 名、霊長類事業副調整者 1 名、チンパンジー計画管理者 1 名、チンパンジー専門技術員 6 名）

議 題：①令和 5 年度繁殖計画進捗状況 ②令和 6 年度移動繁殖計画 ③チンパンジー飼育施設視察及び新施設の計画に関する飼育担当者との協議 ④その他

18) シシオザル計画推進会議開催

開催日：2023 年 9 月 19 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：27 名（霊長類事業調整者 1 名、霊長類事業副調整者 2 名、シシオザル計画管理者 1 名、シシオザル専門技術員 4 名、研究協力者 2 名、オブザーバー 17 名（会員園 11 園））

議 題：①飼育状況報告 ②てんかん発作の遺伝性に関する調査 ③単独飼育の解消方法と複数群・バッチャー群の検討 ④その他

19) ホッキョクグマ計画推進会議開催

開催日：2023 年 9 月 26 日～27 日

場 所：横浜市立よこはま動物園

出席者：①7 名（食肉類事業副調整者 1 名、ホッキョクグマ計画管理者 1 名、ホッキョクグマ専門技術員 5 名）

②全体会 27 名（食肉類事業副調整者 1 名、ホッキョクグマ計画管理者 1 名、ホッキョクグマ専門技術員 5 名、ホッキョクグマ飼育園館職員 13 園館 18 名、生物多様性委員会外部委員 1 名、招聘講師 1 名）

議 題：①今年度の繁殖状況などのまとめ ②新規繁殖計画について ③採精及び人工授精について ④各園館の飼育状況について ⑤ZARAS や繁殖技術の応用に関して（岐阜大学、 楠田哲士准教授） ⑥採精及び人工授精の実際について（北海道大学、柳川洋二郎准教授） ⑦

その他

20) 食肉類作業部会開催

開催日：2023 年 9 月 30 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：17 名（食肉類事業調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、食肉類事業副調整者 2 名（個体群管理者兼務あり）、食肉類計画管理者 6 名（個体群管理者兼務あり）、食肉類個体群管理者 6 名、食肉類維持種担当者 2 名）

議 題：①JCP 担当者変更 ②三部合同会議報告 ③各種別報告 ④種保存会議分科会について ⑤種保存会議での発表について ⑥その他

21) ペンギン類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 2 日～3 日

場 所：アドベンチャーワールド

出席者：14 名（ペンギン類事業調整者 1 名、ペンギン類事業副調整者 2 名、ペンギン類計画管理者 1 名（1 名個体群管理者兼務あり）、ペンギン類個体群管理者 5 名、ペンギン類専門技術員 4 名、招聘講師 1 名）

議 題：①各種報告 ② JCP の見直しについて ③飼育ガイドラインの改訂について ④動物福祉チェックリストへの対応について ⑤血統登録調査票の書式統一について ⑥個体群分析データの共有について ⑦個体群管理勉強会について ⑧管理個体群に入っていない海外由来の個体の取り扱いについて ⑨その他

22) 小型鳥類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 2 日～3 日

場 所：富山市ファミリーパーク

出席者：10 名（小型鳥類事業調整者 1 名、小型鳥類計画管理者 4 名、小型鳥類個体群管理者 5 名）

議 題：①種別概要報告 ②飼育ガイドラインの作成に関して ③オウム・インコデーでの活動報告 ④その他

23) 有蹄類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 2 日～3 日

場 所：東武動物公園

出席者：16 名（有蹄類事業調整者 1 名、有蹄類計画管理者 9 名、有蹄類個体群管理者 4 名、有蹄類維持種担当者 2 名）

議 題：①管理種 2023 年度計画の進捗・成果及び今後の取り組み ②登録種・維持種・調査種概況報告 ③三部合同会議報告 ④分科会及び第 23 回種保存会議について ⑤その他

24) 魚類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 3 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：16 名（魚類事業調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、魚類事業副調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、魚類計画管理者 12 名（1 名計画管理者及び維持種担当者兼務あり）、魚類維持種担当者 1 名、オブザーバー 1 名（会員園館 1 園館））

議 題：①種別中間報告 ②二枚貝の育成を目指した環境整備について ③調査種の状況報告

④その他

25) レッサーパンダ計画推進会議開催

開催日：2023 年 10 月 3 日～4 日

場 所：①周南市徳山動物園②周南市シビック交流センター

出席者：①全体会 50 名（食肉類事業副調整者 1 名、レッサーパンダ計画管理者 1 名、レッサーパンダ専門技術員 6 名、レッサーパンダ飼育担当者 38 園館 42 名（うち非加盟園館 1 園 1 名））

②9 名（食肉類事業副調整者 1 名、レッサーパンダ計画管理者 1 名、レッサーパンダ専門技術員 6 名、レッサーパンダ専門技術員後任予定者 1 名）

議 題：①a) 日本のレッサーパンダの現状と繁殖計画について b) 新規飼育開始園館の施設紹介（熊本） c) 発表演題「レッサーパンダの人工哺育に関するアンケート集計結果について」（横浜動） d) 全体討議 e) その他

②a) 現在の国内等の状況について b) 海外案件について c) 今後の繁殖計画について d) GSMP 報告 e) その他

26) 猛禽類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 4 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：6 名（猛禽類事業調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、猛禽類計画管理者 3 名、猛禽類個体群管理者 2 名）

議 題：①種保存会議分科会の進め方について ②猛禽類作業部会内の課題について ③その他

27) ニシゴリラ計画推進会議開催

開催日：2023 年 10 月 4 日～5 日

場 所：京都市動物園（オンライン会議システムも併用）

出席者：13 名（霊長類事業調整者 1 名、霊長類事業副調整者 1 名、ニシゴリラ計画管理者 1 名、ニシゴリラ専門技術員 5 名、オブザーバー 4 園館 5 名（うち非加盟園 1 園館 2 名））

議 題：①飼育状況報告 ②今後の繁殖計画について ③ガイドライン作成について ④種名変更について ⑤その他

28) 小型哺乳類作業部会開催

開催日：2023 年 10 月 5 日（木）

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：46 名（小型哺乳類事業調整者 1 名、小型哺乳類計画管理者 1 名、小型哺乳類個体群管理者 2 名、オブザーバー 42 名（会員園館 33 園館））

議 題：①血統登録状況 ②令和 3 年～5 年の事業目標 ③令和 3 年～5 年の進捗 ④目標達成に向けての課題抽出 ⑤その他

29) チーター計画推進会議開催

開催日：2023 年 10 月 5 日～6 日

場 所：千葉市動物公園

出席者：①5 名（食肉類事業副調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、チーター専門技術員 4 名）②全体会 23 名（食肉類事業副調整者 1 名（計画管理者兼務あり）、チーター専門技術員

4 名、チーター飼育園館職員 11 園館 16 名、招聘講師 2 名)

議 題：①a)チーター移動計画案について b)ネココロナウイルス、キャリア個体について
c)その他

②a) 2022 年度国内血統登録調査結果報告 b) FIP を発症して死亡したチーター幼獣の報告 (南紀) c) 国内飼育チーターにおけるネココロナウイルスの感染状況報告 (北里大学 高野友美教授) d) 1 年間の病性鑑定について (岡山理科大学 宇根有美教授) e) 各園館近況報告 f) その他

30) 第 1 回オガサワラカワラヒワ検討会開催

開催日：2023 年 11 月 10 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：23 名 (保全戦略部員 1 名、小型鳥類事業調整者 1 名、小型鳥類計画管理者 3 名、小型鳥類個体群管理者 3 名、オガサワラカワラヒワ域外保全協力園館関係職員 8 園館 15 名)

議 題：①オガサワラカワラヒワ域外保全飼育状況報告 ②2023 年カワラヒワの飼育経過 (豊橋) ③横浜市繁殖センターにおけるカワラヒワの繁殖 ④上野動物園におけるカワラヒワの繁殖 ⑤その他

31) マレーバク計画推進会議開催

開催日：2023 年 11 月 17 日

場 所：多摩動物公園 (オンライン会議システムも併用)

出席者：20 名 (有蹄類事業調整者 1 名、マレーバク計画管理者 1 名、マレーバク専門技術員 6 名、マレーバク飼育園館職員 10 園館 12 名)

議 題：①国内マレーバクの現状について ②国内マレーバクの今後の繁殖計画について
③その他

32) スナメリ計画推進会議開催

開催日：2023 年 11 月 21 日～22 日

場 所：宮島水族館

出席者：6 名 (海獣類事業調整者 1 名、スナメリ計画管理者 1 名、スナメリ専門技術員 2 名、オブザーバー 2 名 (非会員園館 2 園館))

議 題：①国内におけるスナメリの飼育状況および今後について ②各園館からの報告 ③その他

33) ユーラシアカワウソ計画推進会議開催

開催日：2023 年 11 月 22 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：14 名 (食肉類事業調整者 1 名、ユーラシアカワウソ計画管理者 1 名、ユーラシアカワウソ専門技術員 6 名、ユーラシアカワウソ飼育園館担当者 6 名)

議 題：①コツメカワウソでの採精試験について ②国内ユーラシアカワウソ飼育の現状と課題
③その他

34) フランソワルトン計画推進会議開催

開催日：2023 年 12 月 18 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：15 名（霊長類事業調整者 1 名、霊長類事業副調整者 2 名、フランソワルトン計画管理者 1 名、フランソワルトン専門技術員 4 名、オブザーバー 7 名）

議 題：①飼育状況及びこれまでの個体群管理に関する報告 ②国内事例報告 ③今後の管理方針の検討 ④その他

35) 第 2 回小型サル類・キツネザル類合同計画推進会議開催

開催日：2024 年 2 月 5 日

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：9 名（霊長類事業調整者 1 名、霊長類事業副調整者 3 名（計画管理者兼務あり）、ワタボウシタマリン計画管理者 1 名、クロキツネザル計画管理者 1 名、キツネザル類専門技術員 2 名、ロリス・マーモセット類専門技術員 1 名）

議 題：①2023 年各種飼育状況、計画報告 ②課題について ③その他

36) ニホンイヌワシ計画推進会議開催

開催日：2024 年 2 月 8 日

場 所：盛岡市動物公園（オンライン会議システムも併用）

出席者：17 名（ニホンイヌワシ計画管理者 1 名、ニホンイヌワシ専門技術員 5 名、ニホンイヌワシ飼育園館担当者 7 名、オブザーバー 4 名）

議 題：①各園の状況について ②2023 年管理計画の結果について ③2024 年管理計画について ④その他

37) コツメカワウソ計画推進会議開催

開催日：2024 年 2 月 21 日～22 日

場 所：①大阪・海遊館 ②オンライン会議システムも併用）

出席者：①5 名（コツメカワウソ計画管理者 1 名、コツメカワウソ専門技術員 4 名）

②全体会 75 名（コツメカワウソ計画管理者 1 名、コツメカワウソ専門技術員 4 名、コツメカワウソ飼育園館職員 68 名 43 園館、講師 1 名、オブザーバー 1 名）

議 題：①a) 国内飼育状況確認 b) 繁殖制限について c) 個体移動について d) ZARAS との連携について e) 繁殖研究の進捗について f) 海外連携について g) 防疫について h) 動物福祉について i) 飼育管理技術向上について j) 専門技術員について k) 今後の計画推進会議について l) アンケート集計結果の確認

全体会②a) 国内コツメカワウソの飼育状況報告 b) 動物の繁殖整理について c) コツメカワウソの腎結石アンケートについて d) 飼育アンケートまとめ e) 事例報告 f) 全体会議その他

38) オランウータン計画推進会議

開催日：2024 年 3 月 5 日～6 日

場 所：札幌市円山動物園（オンライン会議システムも併用）

出席者：9 名（霊長類事業副調整者 2 名、オランウータン計画管理者 1 名、専門技術員 6 名）

議 題：①飼育状況報告 ②課題について ③その他協議事項

39) アムールヒョウ計画推進会議

開催日：2024 年 3 月 8 日（金）

場 所：オンライン会議システムを利用して実施

出席者：8名（食肉類事業副調整者1名、アムールヒョウ計画管理者1名、専門技術員4名、飼育園館職員1名、オブザーバー1名（オオカミ個体群管理者））

議 題：①アムールヒョウホルモン測定結果について ②アムールヒョウ国内個体群の現状
③2024年度の繁殖・行動計画（海外からの導入など）について ④東武動物公園における人工授精について ⑤今後の会議実施等について

VI 調査研究委員会事業

調査研究委員会は、今年度から新設された委員会であり、JAZA 加盟園館における調査研究事業の発展、動物福祉の向上を目的とした学術研究、および調査を目的とした事業を実施した。学術研究部は、各種研究会の開催や動物園水族館雑誌の刊行を行うとともに、国際的なルールに従った動物実験倫理ガイドラインおよび ABS 対策指針の策定に向けた方針を検討し、早期に作成することを確認した。特に、ABS 問題への対応として、会員を対象として ABS ルールに関する講演会を実施した。動物福祉研究部は、WAZA 加盟 10 園館の動物福祉監査を実施し（動物福祉監査グループ）、動物福祉の向上を図るための調査研究・国際連携について議論した。（動物福祉研究グループ）栄養研究部においては、栄養研究の向上を図るため SEAZA 等海外の組織とも連携し、栄養データベースの構築と会員園館への普及啓発を実施した。

1. 執行体制

- (1) 調査研究委員会：委員長1名、副委員長1名、委員2名
 - 1) 学術研究部：部長、部員6名で運営し、当初計画の事業を実施した
 - 2) 動物福祉研究部：部長、部員（監査グループ5名、研究グループ7名）で運営し、当初計画の事業を実施した。
 - 3) 栄養研究部：部長、部員5名で運営し、当初計画事業実施した。

2. 課題への対応状況

- 1) 学術研究部において、ABS 問題への対応を検討すると同時に、各園館に対して啓蒙を図るための講演会を実施した。
- 2) 学術研究部および動物福祉研究部では合同で動物実験倫理規定の策定に向けて原案の作成を開始している。
- 3) 動物福祉研究部においては、次年度以降の動物福祉監査を遂行するため、監査員の増員と育成、および今後の監査スケジュール計画の策定を課題としている。

3. 事業活動報告

(1) 調査研究委員会

本年度から新設されたことにより、新たに委員長・副委員長・各部長が任命され、各部会における活動方針・内容や、部員の担当業務などを整理した。以後、メールや Zoom 等により各部における課題とその対応について複数回情報交換を行い、以下の通り部会や行事を実施した。

(2) 学術研究部事業

- 1) 学術研究部会の開催

第1回学術研究部会 2023年10月5日予定（ウェブ会議）

第2回学術研究部会 2023年2月8日開催（対面にて実施）

2) 動物園水族館雑誌の発行（年4回発行）

3) 技術者研究会の開催

動物園技術者研究会 開催日：1月23-24日 開催場所：福岡市動物園

水族館技術者研究会 開催日：11月16-17日 開催場所：さいたま水族館

海獣技術者研究会 開催日：12月6-7日 開催場所：マリンワールド海の中道

各研究会の宿題調査

4) 研究成果の表彰に関する事項

技術者研究表彰（1件）、古賀賞（該当なし）の推薦、およびベストプレゼンテーション賞・ベストポスター賞を選出した

5) ABS問題の普及啓発に関する事項

6月16日 国立遺伝学研究所 鈴木睦昭氏による研修会を実施

10月24日 アジアABS学術フォーラム-ABSシンポジウム2023（一橋大学講堂）へ川瀬部員を派遣

(3) 動物福祉研究部事業

1) 部会の開催

第1回 動物福祉研究部会 2023年7月26日（オンライン会議）

（動物福祉監査グループ・動物福祉研究グループの合同会議）

第2回 動物福祉研究部会 2024年2月21日（京都市動物園にて対面開催）

2) WAZA加盟園館（10園館）に対する動物福祉監査を実施

2024年度については、各ブロック単位で実施スケジュールを計画し、監査グループと日程調整の上実施する方針を確認

3) 次年度以降の研究助成等の検討

4) 動物福祉に関するシンポジウムの実施

開催日：2月20-21日 開催場所：京都市動物園

参加者総数：196名（ウェブ参加含む）

講演者等：動物園での動物福祉を考える（山梨裕美 京都市動物園）

水族館の動物福祉について（柏木信幸 かがしま水族館）

対話の技術～サイエンスコミュニケーションを基軸に（一方井祐子 金沢大学）

動物の致死処置に対する日本人の意識と今後の対応について（打越綾子 成城大学）

(4) 栄養研究部事業

1) 栄養研究部会の開催

第1回栄養研究部会 2023年7月5-6日（多摩動物公園にて対面開催）

第2回栄養研究部会 2023年12月15日（ウェブ会議にて開催）

2) SEAZA栄養ネットワーク（SNN）との連携を図るためSNNによるPre-Conference Workshopへ職員派遣を行った

3) 栄養素DBの公開と課題について確認し、栄養研究部アクションプランを策定した

4) 会員および一般に対する栄養素 DB 公開に関連するテーマで普及啓発シンポを開催

開催日：2024 年 2 月 29 日（木）13:30～17:00

参加者総数：120 名

VII 地域委員会・ブロック事業

地域委員会は、協会の全国地域 5 ブロックを統括、指導・調整する組織で、地域園館の活性化、人材育成、地域での協会事業など次の事業を実施した。

1. 執行体制

(1) 構成

委員会：委員長 1 名 副委員長 1 名 委員 3 名（ブロック代表理事）

(2) 委員会の開催

1) 第 1 回地域委員会

開催日：2023 年 9 月 21 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、ブロック代表理事 3 名、専務理事、事務局長

議 題：① 各ブロックの会議・事業の進捗状況について（2023 年度上半期）

② 理事会・執行委員会報告 ③ その他

2) 第 2 回地域委員会

開催日：2023 年 3 月 12 日 開催方法：ウェブ会議

出席者：委員長、副委員長、ブロック代表理事 3 名、専務理事、事務局長 計 7 名

議 題：① 各ブロックの会議・事業の進捗状況について（2023 年度下半期）

② 理事会・執行委員会報告

③ その他

2. 事業の実施

(1) 地域園館の活性化に関する事項

動物愛護精神の普及啓発及び地域との交流を図るため、次の事業を実施した。

1) 幼児・児童動物画コンクール(北海道 8 園館、福岡県 5 園館)

2) 写生大会(中部ブロック 6 園館)

(2) 地域での協会事業に関する事項

会員園館職員の人材育成を図るため次の事業を実施した。

1) 事務主任者会議

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	品プリ	2023/9/20	29 園館 40 名	ウェブ会議
中 部	茶臼山	2023/11/9-10	15 園館 17 名	対面
近 畿	鳥羽	2024/1/10	16 園館 24 名	対面
中国四国	とべ	2023/7/3	14 園館 22 名	対面
九州沖縄	長崎バ	2024/2/14	16 園館 21 名	対面

2) 動物園水族館飼育係研修会

① 動物園飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	那須サ	2024/3/7	15 園館 36 名	対面
中 部	浜松	2023/6/21-22	17 園館 31 名	〃
	石川	2023/11/29-30	18 園館 32 名	〃
近 畿	五月山	2023/6/30	12 園館 29 名	〃
中国四国（水族館と合同）	秋吉台	2024/2/7-8	14 園館 29 名	〃
九州沖縄（水族館と合同）	大分	2024/2/8 -9	11 園館 26 名	〃

② 水族館飼育係研修会

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	猪苗代	2023/10/2-3	12 園館 16 名	対面
中 部	近畿ブロックと合同開催			
近 畿	琵琶湖	2023/9/26	14 園館 28 名	対面ウェブ併用
中国四国（動物園と合同）	秋吉台	2024/2/7-8	14 園館 29 名	対面再掲
九州沖縄（動物園と合同）	大分	2024/2/8-9	11 園館 26 名	〃 再掲

3. ブロック園館長会議

次のブロック園館長会議を開催し、ブロック内事業を実施するため、議題に基づく意見交換、問題解決、意思決定等を行った。

ブロック別	開催場所	開催年月日	参加者	備考
関東東北・北海道	川崎水	2023/04/25	55 園館 68 名	ウェブ併用
〃	盛岡	2023/10/18	32 園館 50 名	対面
中 部	高岡	2023/04/19	19 園館 25 名	ウェブ会議
〃	富山	2023/11/21	21 園館 24 名	ウェブ併用
近 畿	海遊館	2023/04/14	21 園館 28 名	対面
〃	姫路	2023/10/23	20 園館 28 名	対面
中国四国	徳山	2023/04/19	14 園館 16 名	対面
〃	池田	2023/10/11	13 園館 15 名	対面
九州沖縄	沖縄こ	2023/04/11	17 園館 19 名	対面
〃	長ペン	2023/11/08	18 園館 20 名	対面

VII 事務局事業

協会事務局は刊行物、CITES 保護、野生動物保護募金など次の事業を実施した。

1. 執行体制

専務理事 1 名、事務局長 1 名、職員 5 名

2. 事業の実施

(1) 統計、刊行物に関する事項

1) 年報の発行

動物園水族館に関する管理者・職員数・飼育動物数・入園館者数・経費・繁殖動物などを調査し、会員園館及び関係機関に配付するとともに、一般にも有償頒布する。

※2023 年 9 月発行 350 部

2) 事業概要の発行

協会の概要・会員・役員・各種会議・事業など集約し、会員園館に頒布するとともに関係機関にも配付する。
※2023 年 8 月発行 400 部

3) 月報の作成

会員園館の事業報告、各種会議報告、事務局報告などを毎月作成し、会員用ホームページに掲載するとともに、維持会員にもメール配信し、情報提供を行った。

4) 飼育ハンドブックの増刷等（改訂版 新・飼育ハンドブック）

2023 年度は増刷無し

5) 動物園水族館雑誌の発行

動物園水族館雑誌 65 巻第 1 号～第 4 号 各 500 部

(2) 会費に関する事項

次の関係団体に加入し、総会へ出席するなど情報交換を行うとともに、種保存など連携を図った。

- 1) 日本博物館協会 (30 千円)
- 2) 国際自然保護連合(IUCN) (182 千円)
- 3) 国際自然連合日本委員会(IUCN-J) (30 千円)
- 4) 世界動物園水族館協会(WAZA) (368 千円)
- 5) 日本ツル・コウノトリネットワーク (2 千円)
- 6) 野生動物保全繁殖研究会(10 千円)

(3) 野生動物保護募金に関する事項

野生動物の保護活動に積極的に取り組むため会員園館に募金箱を設置し、来園者などから広く寄付金を募り、野生動物の保護活動事業に助成した。

2023 年度募金額 134 件 6,813 千円

- 1) 野生動物保護募金事業助成 6 件 3,000 千円

(4) 能登半島地震による被災館に対する見舞金募集

2024 年 1 月 1 日に発生した能登半島地震により被災した「のとじま臨海公園水族館」（のとじま水族館）に対して、会員園館および公開ホームページにて見舞金募集を呼びかけた。

募集期間：2024 年 1 月 16 日～4 月 20 日

募集方法：園館においては募金箱の設置。HP 上では郵便振替による募集

募金金額：43,658,920 円（3 月 31 日末）

(5) 総会・理事会等に関する事項

1) 総会

開催日：2023 年 5 月 23 日～24 日 開催担当：宇部市ときわ動物園（会場：ANA クラウンプラザ ホテル宇部）

2) 理事会・執行理事会・三役会議

- ① 理事会 6 回開催
- ② 三役会議 8 回開催

(6) 監査に関する事項

2023 年度の事業報告及び決算報告について、2024 年 5 月 2 日に監事による監査を実施した。

(7) 新入会員調査に関する事項

なし

(8) 法人管理運営に関する事項

会議経費、人件費等執行した。

(9) その他事業の実施

- 1) 受託事業：独立行政法人国際協力機構（JICA）の2023年度バングラデシュ国別研修「動物園における施設・飼育管理能力強化プロジェクト」に係る研修の実施

受入人数：10名

受入期間：2023年9月4日～9月15日

- 2) 連携事業：第2回「自然と人間との共生フォーラム」

サブタイトル：いきものの素晴らしさを感じ、伝え、活動する

共催：公益財団法人国際花と緑の博覧会記念協会、公益社団法人日本植物園協会

開催日：2024年3月9日（土）14:00～16:00

方法：ウェビナー形式

参加人数：117名

Ⅷ 公益目的・法人の共通事業

職員給与、役員報酬、修繕・委託費、事務所費等を執行した。

Ⅸ 決算概要(正味財産増減計算書内枠書抜粋)

(単位：円)

科目	公益目的会計	法人会計	合計
I 一般正味財産			
1. 経常増減の部			
1) 経常収益			
基本財産運用益	21	9	30
特定資産運用益	68,143	87	68,230
受取入会金	0	0	0
受取会費	12,441,000	29,029,000	41,470,000
事業収益	16,310,533	0	16,310,533
受取補助金等	28,977,559	0	28,977,559
受取負担金	7,159,000	1,140,000	8,299,000
受取寄付金	8,588,998	2,877,339	11,466,337
雑収益	1,429,741	74	1,429,815
経常収益計	74,974,995	33,046,509	108,021,504
2) 経常費用			
事業費	108,321,406	0	108,321,406
管理費	0	20,006,344	20,006,344
経常費用計	108,321,406	20,006,344	128,327,750
当期経常増減額	△33,346,411	13,040,165	△20,306,246

2. 経常外増減の部			
1) 経常外収益	0	0	0
2) 経常外費用	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
他会計振替額	32,872,443	△32,872,443	0
当期一般正味財産増減額	△473,968	△19,832,278	△20,306,246
一般正味財産期首残高	17,407,567	54,647,988	72,055,555
一般正味財産期末残高	16,933,599	34,815,710	51,749,309
II 指定正味財産増減の部			
受取補助金	0	0	0
受取寄付金	51,363,768	0	51,363,768
助成金返還額	172,483	0	172,483
特定資産運用益	348	0	348
一般正味財産への振替額	△5,779,531	0	△5,779,531
当期指定正味財産増減額	45,757,068	0	45,757,068
指定正味財産期首残高	157,849,621	0	157,849,621
指定正味財産期末残高	203,606,689	0	203,606,689
III 正味財産期末残高	220,540,288	34,815,710	255,355,998

第4章 事業の課題

2023年度の事業計画に基づき執行委員会及び協会事務局として事業を実施してきたが、2024年度からの主な検討課題は次のとおりである。

I 総務委員会

1. 情報システム運営部

公開ホームページ、会員ホームページの利便性と活用の向上をめざす。

2. 水族館部

水族館部繁殖支援事業の推進

II 教育普及委員会

1. 教育研修部

(1) 飼育技師資格認定における試験問題の精査

(2) 飼育技師上級試験の評価

2. 普及啓発部

(1) 「いきもの学びねっと」の在り方検討

(2) 生物多様性委員会との環境省関連教育普及事業等での協働

(3) J-GBF ネイチャーポジティブへの対応

III 安全対策委員会

1. 会員園館における安全対策や災害対策、感染症対策を進めるための情報収集と会員への情報提供の方

法について、発生事例等に沿った検討を進め、有効な実施方法について協議していく。

2. 安全対策委員会並びに各部会において、各事業の基本的な情報並びに最新の情報を共有する体制の構築を図り、事故や災害の発生に向けた着実な対策等事業の実施に努める。

IV 生物多様性委員会

1. 国際保全事業部

(1) 国際的な連携について

WAZA、CPSG、SEAZA などの国際組織、海外組織と常時、密な連携を維持する必要がある。

個体群管理目標 2027 への対応を進める必要がある。

協定を締結した海外の動物園水族館協会との具体的な連携事業を見出し、開始する必要がある。

(2) 国際的な個体群管理事業への対応について

アジア地域協会連携会議の合意事項に沿って、アジア地域での個体群管理計画の連携を進める必要がある。

動物種ごとの国際連携を進める必要がある。

(3) Species360・ZIMS 対応について

グローバルなデータベースへの対応を進める必要がある。

(4) マレーシア・サバ州との生物多様性保全に関わる連携事業について

サバ州における生息域内保全への支援、現地での救護個体の飼育に関する支援、現地や国内での生息域外保全に関する検討、教育普及事業を、それぞれ推進する必要がある。

(5) 経済産業省対応について

経済産業省と継続的に連絡・協力できる体制を維持する必要がある。

(6) 体制の充実について

人材育成を進め、継続的に国内外の機関・組織との関係を維持、構築、発展させることができる体制を確立する必要がある。

世代交代を進める必要がある。

2. 保全戦略部

(1) 種保存事業の実施に係る助言及び支援に関する事項について

種保存事業の推進のための各種共同研究の実施についての組織的取決めがなく、根拠が薄弱との指摘がある。

(2) 配偶子バンク及び遺伝子資源保存等に関する事項について

ZARAS（動物園水族館繁殖研究アライアンス）とのとの協定に基づく事業の実施体制の一層の整備を図る必要がある。

3. 種保存事業部

(1) JCP の推進

1) 種管理計画の評価

カテゴリー基準の明確化はできていない

2) 海外との連携

レッサーパンダの JAZA 個体群管理においてインドネシア Batu Secret Zoo の参加、台湾動物園水族館協会との協力についての覚書に基づき個体移動の斡旋など行ったが、継続的な協力関係の構築が必須。

3) 検疫

種保存会議に経済産業省担当者を招聘し、情報共有を図ったが、有蹄類、霊長類の検疫について根本的な解決策が見いだせない。

4) 非会員施設との連携

(一社) 日本水族館協会と野生動物の保全に関する包括連携協定に基づく事業の調整。

V 調査研究委員会

調査研究委員会は、今年度の改組により新設された委員会であり、初年度は主に今後の活動の方針や連携が課題となっていた。今年度の会議や意見交換により、各部の方針が明確化され、次年度以降の事業に反映する予定。

1. 各園館に共通の課題として、研究資金の確保や研究能力の向上を図るため、新たな支援策が必要であると考えられる。本委員会でも、協会が支援できる体制を構築する必要性が議論されており、2024年度以降に具体的な事業を開始したい。
2. 調査研究における課題として、動物園水族館における ABS 問題と動物実験倫理規程の策定が求められる。今年度の理事会にて早急に議決を得て、実施案を公表する必要がある。
3. 動物福祉監査は、今年度より WAZA 加盟園館を対象として実施された。2024 年度以降は、JAZA 全加盟園館を対象に監査が開始されることから、監査員と監査対象園館の双方の負担が増加することが予想される。本事業を円滑に進めるため、監査スケジュール案の策定、監査員の育成等が課題である。

VI 地域委員会

1. 各ブロックの更なる情報共有を図り、課題の把握・解決に努める。

VII 協会事務局

1. 事務局内作業の効率化、法律が求める保存文書の電子化を推進する